

令和2年度学校経営計画

廿日市市立津田小学校

校訓 「強く・正しく・明るく」

1 経営理念

変化の激しい社会の中で、夢に向かい諦めずにチャレンジする児童を育成するために、課題発見・解決型の授業づくりを中心に広島版「学びの変革」の全県展開を受け、主体的・対話的で深い学びを推し進め、知・徳・体のバランスのとれた教育によって学力向上をめざす。また、29年度は佐伯中学校区で「学力向上推進地域」の指定を受け、「人とかかわり合い、意欲的に課題を解決しようとする児童生徒の育成」をめざし、家庭教育支援アドバイザーの支援を受けながら取組んだ。さらに30年度からは、新たに3年間の「学力向上推進地域」の指定を受けさらなる充実を目指してきており、今年度はまとめの年となる。

中学校区でのこれまでの取り組みをさらに具体的に進めるために、義務教育9年間を見通した「育てたい資質・能力」を明らかにしながら、学力に課題のある児童を中心に「学力向上」に向けた取り組みを推進していく。また、平成27年度からの浅原小との統合により津田地域と浅原地域は、同じ津田小校区として両地域から信頼される学校になるよう取組みを進める。

そのために、教職員自身が資質と能力を向上させ、全教職員が教育目標の実現に向けて「チーム津田小」として組織的に取り組み、社会に開かれた教育課程を保護者・地域とともにマネジメントできる学校をつくっていくとともに、より働きやすい職場環境を整備していく。

2 学校教育目標

夢に向かいチャレンジする津田小の子

3 研究主題

人とかかわり合い、意欲的に課題を解決しようとする児童生徒の育成
～自ら考え、学び合う算数科の授業づくりをめざして～

4 育てたい資質・能力

- **思考・表現** (自分の考えをもち、根拠を明確にし、伝える相手や状況に応じて表現することができる。)
- **共感的人間関係** (多様性を尊重し、互いの良さを生かして協働することを通して、自他共に認め合うことができる。)
- **主体性** (主体的に課題を見つけたり、解決したりして、自己の生き方を考えて実践していこうとする。)

5 教育計画

(1) 「自ら考え行動する子 (知)」

コンピテンシー【資質・能力(知識、スキル、意欲・態度、価値観・倫理観)】の育成を目指した主体的、協働的な学びが実現できるようにする。

① 基礎的・基本的な学力の定着

- ・ 体験的な活動や反復学習で発達の段階に応じて徹底して習得させ学習の基盤をつくる。
- ・ 小中連携を進める中で学力向上させるため家庭学習の充実を目指し、授業とリンクした課題や主体的な学びにつながる課題を考えていく。
- ・ 単元の見通しを立て、先生も児童もゴールイメージを共有し、単元の計画を立て、習得や活用、意欲や態度の育成を行っていく。

② 考える力の育成

- ・ 自分で考える力を育てていくために、ノート指導を充実させていく。
- ・ 自分の考えを授業の中で発表でき、友達の考えを聞いて自分の考えと比べ、思考力を深められる子を

育てる。

- ・ それらを充実させるために ICT 機器の積極的な活用をしていく。

③ことばの教育の充実

- ・ すべての教科や活動の中で児童の言語活動の充実を重視し、朝の帯タイムなどで習得したことを使い、自分の気持ちや考えを自信を持って表現できる子を育てる。

(2)「自他を大切に子(徳)」

① 生徒指導体制の確立

- ・ お互いを認め合う集団づくりを行い、一人一人の居場所がある温かい学級経営とそれを支援する学校の雰囲気をつくりながら、自己肯定感、自己有用感を高める。
- ・ 「いじめ・不登校0」を目標に、生徒指導主事を中心に「チーム Tsuta」として、朝の出欠席把握と対応、個別支援、ケース会議、外部との連携に取り組む。
- ・ 報告・連絡・相談を大事にし、小さなことも見逃さず素早く、丁寧に対応していく。

② いじめを許さない学校づくり

- ・ 「いじめは人間として絶対に許されない。」との意識を、学校全体を通じて、児童生徒に徹底する。縦割り班活動等で、異学年交流をする中で、児童に自己有用感や人間関係形成能力を育てる。
- ・ 一人一人の児童のよさをみつけ、褒めて育てる。

③ 特別支援教育

- ・ 特別支援教育の視点に立った授業づくりを進め、児童にあった支援内容や方法、個別支援計画の検討、研修を進め、教職員の理解を深め、指導力を向上する。
- ・ 通級指導教室についての研修を深め、よりよい活用ができるように教職員の共通認識を図っていく。

④ 挨拶と返事

- ・ 「あいさつ運動」に取り組み、大きな声で、気持ちをこめ自分から明るく挨拶できる子を育てる。

⑤ 学習規律の徹底(津田小の子ガイドブックの徹底)

- ・ 授業の始まりや終わりを厳守する。(事前に準備しチャイムと同時に始める)
- ・ 傾聴姿勢の徹底。

(3)「元気にチャレンジする子(体)」

① 体力づくり

- ・ 体育の授業では、その運動の持っている特性に触れ、楽しさを味わわせながら、体を動かすことが好きな児童を育てる。
- ・ 朝トレの継続や外遊びの推奨等、日々の遊びや運動を通して体力の向上を目指す。
- ・ 食育を推進し、保護者を啓発し、連携して生活習慣の定着を図る。

② 健康・安全

- ・ 虫歯の罹患率が全国平均と比べやや高い傾向があるので、歯と健康についての関心を高める工夫をしていく。

6 信頼される学校にするために

- ・ 保護者や地域の方々に丁寧な対応を行う。
- ・ 保護者・地域に向け、ホームページ、学校だより等で、学校の情報を発信する。
- ・ 地域学校協働本部設立にともない、さらに地域との連携をしっかりとっていく。
- ・ 学校評価、学校関係者評価を定期的実施し、開かれた学校にしていく。
- ・ 津田地域、浅原地域と連携し情報を発信し、信頼を得ていく。
- ・ 学校全体の長時間勤務が縮減され、教職員一人一人が健康で、生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進していく。